

**Family list****12 family members for:****JP61275241**

Derived from 8 applications.

- 1 PROCESS FOR THE PRODUCTION OF DEUTERATED ACRYLIC ACID OR DEUTERATED METHACRYLIC ACID**  
Publication info: **CA1265814 A1** - 1990-02-13
- 2 Process for the production of deuterated acrylic acid or deuterated methacrylic acid.**  
Publication info: **DE3689206D D1** - 1993-12-02
- 3 Process for the production of deuterated acrylic acid or deuterated methacrylic acid.**  
Publication info: **DE3689206T T2** - 1994-04-14
- 4 Process for the production of deuterated acrylic acid or deuterated methacrylic acid.**  
Publication info: **EP0203588 A2** - 1986-12-03  
**EP0203588 A3** - 1988-01-27  
**EP0203588 B1** - 1993-10-27
- 5 PRODUCTION OF DEUTERATED ACRYLIC ACID OR METHACRYLIC ACID**  
Publication info: **JP61275241 A** - 1986-12-05
- 6 PRODUCTION OF DEUTERATED ACRYLIC ACID OR DEUTERATED METHACRYLIC ACID**  
Publication info: **JP61277648 A** - 1986-12-08
- 7 Process for the production of deuterated acrylic acid or deuterated methacrylic acid.**  
Publication info: **NO163953B B** - 1990-05-07  
**NO163953C C** - 1990-08-15  
**NO862126 A** - 1986-12-01
- 8 PROCESS FOR THE PRODUCTION OF DEUTERATED ACID OR DEUTERATED METHACRYLIC ACID**  
Publication info: **US5221768 A** - 1993-06-22

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭61-275241

⑤ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和61年(1986)12月5日

C 07 C 57/04

6670-4H

B 01 J 23/40

7059-4G

C 07 C 51/347

8318-4H

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑥ 発明の名称 重水素化アクリル酸又は重水素化メタクリル酸の製造方法

⑦ 特 願 昭60-113963

⑧ 出 願 昭60(1985)5月29日

⑨ 発 明 者	加 藤	正 明	大竹市御幸町20番1号	三菱レイヨン株式会社内
⑩ 発 明 者	宇 野	哲 也	大竹市御幸町20番1号	三菱レイヨン株式会社内
⑪ 発 明 者	小 林	雅 夫	大竹市御幸町20番1号	三菱レイヨン株式会社内
⑫ 発 明 者	大 須 賀	直 人	大竹市御幸町20番1号	三菱レイヨン株式会社内
⑬ 出 願 人	三菱レイヨン株式会社		東京都中央区京橋2丁目3番19号	
⑭ 代 理 人	弁理士 小林 正雄			

## 明 細 書

## 発 明 の 名 称

重水素化アクリル酸又は重水素化メタクリル酸の製造方法

## 特 許 請 求 の 範 囲

1. 触媒の存在下にアクリル酸又はメタクリル酸の水素を重水素交換することを特徴とする、重水素化アクリル酸又は重水素化メタクリル酸の製造方法。
2. 触媒としてパラジウム、ルテニウム、イリジウム及び／又は白金を含む化合物を使用することを特徴とする、特許請求の範囲第1項に記載の方法。

## 発 明 の 詳 細 な 説 明

本発明は重水素化アクリル酸又は重水素化メタクリル酸の製造方法に関する。

## 〔従来の技術〕

従来、重水素化メタクリル酸を製造する方法

としては、重水素化アセトンシアンヒドリンを経由して重水素化メタクリル酸メチルを製造する方法がジャーナル・オブ・ポリマーサイエンス6,2巻95頁(1962年)に提案されている。またこの中間生成物である重水素化メタクリルアミドを加水分解する方法、すなわち重水素化アセトンと青酸より重水素化アセトンシアンヒドリンを製造し、これを硫酸で処理して生成するメタクリルアミドの硫酸塩を重水で加水分解して重水素化メタクリル酸を製造する方法も知られている。しかしこれらの方法は重水素化アセトン及び重水など重水素化した原料を使用し、多くの反応工程を必要とするため、経済上充分なものとはいえず、より工程の少ない改良法が望まれていた。

## 〔問題点を解決するための手段〕

本発明者らは重水素化メタクリル酸の合理的な製造法について鋭意研究した結果、メタクリル酸中の水素を直接重水素交換する新規な製造法を見出し、本発明を完成した。

本発明は、触媒の存在下にアクリル酸又はメタクリル酸の水素を直接重水素交換することを特徴とする、重水素化アクリル酸又は重水素化メタクリル酸の製造方法である。

アクリル酸又はメタクリル酸の水素を直接重水素交換するための重水素源としては、重水又は重水及び重水素ガスの混合物を用いることができる。アクリル酸又はメタクリル酸に対して少なくとも化学量論以上の重水素が反応系に存在することが必要である。

触媒としてはパラジウム、ルテニウム、イリジウム及び／又は白金を含む化合物例えばヘキサクロロイリジウム酸、テトラキス(トリフエニルホスフィン)パラジウム、臭化白金酸カリウム、ペンタクロロルテニウム酸カリウム、硝酸パラジウム、ヘキサヒドロキソ白金酸カリウムなどが好ましい。これらの2種以上の混合物を用いることもできる。これらの化合物は、必要に応じて適当な担体、例えばアルミナ、シリカ、シリカーアルミナ、珪藻土、活性炭などに

はガスクロマトグラフ及び質量分析装置によつた。重水素化率及び転化率は以下のように定義される。

$$\text{重水素化率} = \frac{\text{生成した重水素化アクリル酸又はメタクリル酸の重水素原子数}}{\text{重水素化すべきアクリル酸又はメタクリル酸の水素原子数}}$$

$$\text{転化率} = \frac{\text{反応したアクリル酸又はメタクリル酸のモル数}}{\text{仕込みアクリル酸又はメタクリル酸のモル数}} \times 100$$

#### 実施例 1

メタクリル酸 8.6 部、重水 40 部、ヘキサクロロイリジウム酸 0.3 部及び重合防止剤として微量のヒドロキノン小型オートクレーブに入れ、攪拌下、110℃で24時間反応させた。冷却後、反応生成物を分析したところ、転化率100%で重水素化率26%の重水素化メタクリル酸が得られた。

#### 実施例 2

ヘキサクロロイリジウム酸 0.3 部をテトラキス(トリフエニルホスフィン)パラジウム 0.5

担持させて用いることもできる。

反応は気相、液相のいずれでもよく、また加圧下で行うこともできる。重合反応を抑制するため、適当な重合防止剤例えばフェノチアジン、ヒドロキノン等を必要に応じて添加することができる。また、反応液中に少量の酸素を共存させることによって重合を抑制することもできる。

本発明を実施するに際しては、アクリル酸又はメタクリル酸を重水素源例えば重水と反応させ、アクリル酸又はメタクリル酸の水素を直接重水素交換する。

本反応は、必要に応じて、反応温度で安定な溶媒例えばジメチルアセトアミド、ジメチルホルムアミド等の存在下に行われる。本反応は室温ないし300℃で行われるが、反応速度、副反応及び重合の抑制の面から60～200℃で行うことが好ましい。反応時間は通常20分ないし100時間である。

下記実施例中の部は重量部を意味する。分析

8部に替え、その他は実施例1と同様にして反応させた。その結果、転化率100%で重水素化率84%の重水素化メタクリル酸が得られた。  
実施例 3

アクリル酸 7.2 部、重水 40 部、ヘキサクロロイリジウム酸ナトリウム 1.4 部、ジメチルアセトアミド 22 部及び微量のヒドロキノンを冷却器付のフラスコに入れ、攪拌しながら90℃で60時間反応させた。その結果、転化率79%で重水素化率25%の重水素化アクリル酸が得られた。

#### 実施例 4～8

触媒として臭化白金酸カリウム 0.38 部(実施例 4)、ペンタクロロルテニウム酸カリウム 0.2 部(実施例 5)、硝酸パラジウム 0.23 部(実施例 6)、ヘキサヒドロキソ白金酸カリウム 0.2 部(実施例 7)又はパラジウム及びルテニウムを活性炭粉末に各1%担持した触媒2部(実施例 8)を用い、反応温度及び時間を下記表のように変更し、その他は実施例1と同様に、

して反応させた。

その結果を次表に示す。

実施例	触 媒	反応温度 (°C)	時間	転化率 (%)	重水素化率 (%)
4	臭化白金酸カリウム	100	24	70	37
5	ペンタクロロルテニウム 酸カリウム	100	24	82	34
6	硝酸パラジウム	110	24	76	22
7	ヘキサヒドロキシ 白金酸カリウム	110	24	99	40
8	パラジウム・ルテニウム ・活性炭	90	40	55	25

出 願 人 三 菱 レ イ ヨ ン 株 式 会 社

代 理 人 弁 理 士 小 林 正 雄